

## 「共分散専門家会議」報告

(日本原子力研究所) 中島 豊

標記の会議が 1993年 7月15日(木)と16日(金)に日本原子力研究所東海研究所研究1棟第5会議室で開催された。参加者は外国人2名を含め 24名であった。

共分散データを JENDL-3 に入れるかどうかその評価開始以前から議論があったが、結局 JENDL-3 には入れることが出来なかった。その後 NEA での国際協力などで評価法の検討が続けられてきたが、明確な結論は得られていない。こうした実状からシグマ委員会では核データ専門部会に共分散評価ワーキンググループを今年 4月から発足させた。更にこの分野での研究活動の活性化を目的としてこの会議が持たれたのである。従ってこの会議の目的は共分散の評価法についての何らかの結論を見いだすことではなく、この会議を契機として共分散研究活動の活性化を図ることにあった。

会議の内容については次頁のプログラムを参照していただくとして、この会議の印象について若干述べることにする。

- ① 討論は非常に活発であった。特に評価者と利用者との間で共分散の評価値の意味に関する議論が激しかった。またこの点に関しては評価者同士の間にも若干の異論があり、コンセンサスを得るのにはまだ時間がかかるとの印象を受けた。
- ② 共分散の意味について異論はあるものの、評価はワーキンググループで議論しながら進めることになっており、これを契機に評価作業は着実に進むものと思われる。
- ③ テーマが狭かったことが幸いして、参加者数もそれほど多くなく、こじんまりした会議になり、時間的にも余裕があり議論を深めることが出来た。
- ④ 共分散の利用者は今のところ余り多くはなく、この点で評価を進める上でのドライビングフォースが弱いように思われる。現在既に利用している研究者からは共分散データの評価に強い要望があった。
- ⑤ 報文集を出版する予定で原稿を集めている。

## 共分散専門家会議プログラム

7月15日(木)

セッション A 共分散の意味 (座長: 菊池 康之) (13:30~14:50)

1. 核データの共分散について 神田 幸則(九大) (13:30~14:10)
2. ピールのパズルについて 千葉 敏(原研) (14:10~14:50)

セッション B 共分散の処理と表現法 (座長: 真木 紘一) (15:20~17:10)

1. ENDF/B-VI フォーマット 中川 庸雄(原研) (15:20~16:00)
2. 共分散の処理方法 長谷川 明(原研) (16:00~16:40)
3. NEUPAC 用共分散データの作成経験 井口 哲夫(東大) (16:40~17:10)

懇親会 (阿漕が浦クラブ B C ルーム) (18:00~20:30)

7月16日(金)

セッション C1 共分散の算出法 (座長: 植之原雄二) (9:20~12:00)

1. 同時評価の経験 村田 徹(東芝) (9:20~10:00)
2. FP データの共分散算出方法 川合 将義(東芝) (10:00~10:40)
3. 核模型による計算値の共分散算出法 河野 俊彦(九大) (10:40~11:20)
4. 放射化データにおける誤差評価 小林 捷平(京大) (11:20~12:00)

セッション C2 共分散の算出法 (座長: 中島 豊) (13:00~14:00)

5. モデルパラメータの共分散と感度係数 柴田 恵一(原研) (13:00~13:40)
6. モデル計算と最小自乗法による共分散の比較 岩崎 信(東北大) (13:40~14:00)

セッション D 共分散の利用 (座長: 岩崎 信) (14:00~15:30)

1. FBR 核設計および炉定数調整での利用 石川 真(動燃) (14:00~14:50)
2. 「常陽」原子炉ドジメトリー試験における  
共分散誤差ライブラリーの使用経験 茶谷 恵治(動燃) (14:50~15:30)

セッション E 自由討論 (座長: 神田 幸則) (15:40~16:30)